

院内掲示用

患者さんおよび代理人の方へ

「ICT（情報通信技術）を利用した認知症ケアのための情報収集・蓄積とグッドプラクティス自動抽出システムの開発と検証研究」

## 1. 研究の対象

認知症の人をケアしている家族や医療従事者、介護従事者で、20歳以上の方。

## 2. 研究目的・方法

目的：我々は、認知症の人の様々な症状に対する有効な対応方法を明らかにするために、「認知症ちえのわ net」というウェブサイトを構築しています。本サイトを用いて、我々は、認知症の人をケアする人たちが行った様々な対応方法を、その対応法が奏効したか否かという情報とともに広く収集・蓄積しています。そして蓄積された情報を元に、様々な対応方法の奏効確率を算出しています。そして高い確率で認知症の方の症状を改善させることができた対応方法をグッドプラクティス(GP)、高い確率で症状を改善させることができなかつた、あるいは悪化させた対応方法をバッドプラクティス(BP)と定義し、収集・蓄積した情報の中から GP と BP を抽出しています。今回我々は、次の段階の研究として、認知症ちえのわ net で抽出した GP を実臨床場面で実施し、実臨床場面での奏効確率と認知症ちえのわ net 上の奏効確率の一貫性を評価することで、認知症ちえのわ net で抽出された GP の信頼性を検証します。

方法：認知症ちえのわ net で公開されている GP とされている対応方法を、同じ症状を呈した外来・入院患者さんに対して実施したり、ケアする人に実施してもらったりします。例えば、「薬を飲み忘れる」症状を認めた患者さんに対して「薬カレンダーを利用する」、「ある物が人や顔などに見える」症状を認めた患者さんに対して「見間違えている物を除去する」、といった対応方法を実施したり、実施してもらったりします。これらの対応方法は、いずれも非侵襲的で、一般的に認知症の方のケアに有用であると考えられており、一般診療で行われるものです。実施した対応方法が有効であったかどうかの情報を集積し、実臨床場面での奏効確率を計算して、認知症ちえのわ net で計算された奏効確率との一貫性を定量的に評価します。

研究期間：2019年1月24日～2020年3月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：ニックネーム、性別、生まれた年、郵便番号の最初の3桁、認知症の診断の有無、有の場合は疾患名、要介護度、独居・非独居・入所、職業、教育歴、病前性格、飲酒歴など

### 4. 外部への試料・情報の提供

上記の情報を、電子的配信を用いて、共同研究施設（大阪大学大学院医学系研究科精神医学分野、同情報科学研究科マルチメディア工学専攻ビッグデータ工学講座、熊本大学大学院神経精神医学、東京医療保健大学医療保健学部医療情報学科）に配信することがあります。

### 5. 研究組織

高知大学医学部神経精神科学教室 数井裕光  
大阪大学大学院医学系研究科精神医学 吉山顕次  
熊本大学大学院神経精神医学 橋本衛  
東京医療保健大学医療保健学部医療情報学科 小杉尚子  
大阪大学大学院情報科学研究科 鬼塚真  
医療法人南江会一陽病院 諸隈陽子  
医療法人一条会渡川病院 吉本啓一郎  
兵庫県立リハビリテーション西播磨病院 榎林哲雄  
公益財団法人浅香山病院 繁信和恵

（試料・情報の管理は大阪大学大学院情報科学研究科にて行います）

### 6. お問い合わせ

本研究に関するお問い合わせの窓口は以下の通りです。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

高知大学医学部 神経精神科学教室 数井裕光（研究責任者）

電話：088-880-2359

## 7. 詳細情報

詳しくはこちら(<http://chienowa-net.com>)をご覧ください。